

平成28年度（第2回）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：平成28年7月12日（火）13時30分～15時15分

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 野村幸雄委員長、橘川昭夫副委員長、江見千秋委員、
久保田秀実委員、関口金由紀委員、三宅栄子委員、
目黒美砂緒委員

（事務局） 府川教育長、三浦生涯学習課長、小嶋生涯学習・スポーツ班長、
清宮主任主事

傍聴者1名

資料

- ・会議次第
- ・平成28年度社会教育委員会議研究テーマについて

1. 開 会

2. 研究テーマについて

（委員長）研究テーマ案、前回出された意見について、資料のとおりである。黙読後、自由に意見を出していただき、研究テーマを決定したいと思う。

（教育長）前回、「中学校に入ると勉強や部活で忙しくなる。子どもたちは時間的余裕がない」という意見があった。子どもたちに地域の大人たちとの活動を呼びかけても、部活等が理由で参加しない。今の子どもたちに合った呼びかけ方や事業のあり方はあるか。にのみや子ども自然塾（以下、子ども自然塾）について、前回は保護者と幼児を合わせて約300人の参加があった。年間5～6回実施し、毎回200人を超える参加がある。このように人が集まる秘訣は何か。土日に多くの中学生に集まってもらうにはどのような方法があるか。

（委 員）子ども自然塾を始めた頃、各地にあるプレイパークのように、子どもが自ら考え、工夫した遊びをして、生きる力を育むような活動にしたいと思った。今は子どもの数が少なく、公園に行っても他の親子との交流がない。また、核家族化で親の負担が大きくなっている。子ども自然塾は子どもの遊びの追及と親子の応援を考えた内容で、子どもだけでなく、親も楽しむ場になっている。

前回から、恵友会、シニアリーダーズクラブに所属していた方が会員になった。その方の話だと、シニアリーダーズクラブの活動をもっと活性化させたいと思ったが、活動を継承する人がいないとのことだった。子ども自然塾がシニアリーダーズクラブの活動の場や、きっかけとなったら良い。

二宮高校にボランティアグループがあるが、このグループを作ったのが、恵友会を経て、シニアリーダーズクラブに所属している人だったようだ。シニアリーダーズクラブの活動から他の活動へとつながっている。

（委 員）中学校には、ボランティア関係の部活はないのか。

（教育長）キャリア教育ということで、職業体験をしたり、地域の清掃、防災活動等に参加する、総合的な学習の時間が小中学校にある。この時間中は、一生懸命地域活動をしているが、放課後や土日は部活に時間を割かれてしまい、地域活動に

充てる時間がない。文部科学省も、土日の部活は減らすようにと啓発している。中学生が週に1回くらいは、思い切り地域活動できる社会になったら良いと思う。

(委員) 部活は必ず入らなければいけないのか。

(教育長) 子どもが好きな部活を選び、自由に入っている。中には入っていない子どももいる。

(委員) 部活に入っていない子どもをボランティア部に引き入れたらどうか。

(委員) 部活に所属していない子どもに声をかける方法は良いと思うが、積極的ではない子どももいるので難しいのではないか。

(委員) 恵友会、シニアリーダースクラブの活動内容がよく分からない。また、青少年指導員の役割も併せて教えてほしい。

(事務局) 恵友会は中学生のボランティアサークルである。会員数は昨年度は6人、現在は9人である。自主活動はなく、ゴミ0キャンペーンや、子どものリーダーを養成する、ジュニアリーダー養成研修会に参加してもらうことが活動となっている。以前は小学生で子ども会に入っていた子が、中学生になると恵友会に入るといった流れがあったが、そうした流れが今はなくなってしまった。

ジュニアリーダー養成研修会を通じて、恵友会に入ってもらおうことを考えているが、部活や塾で同研修会に参加できない子どもが多い。

シニアリーダースクラブは高校生から20才までの世代のボランティアサークルである。毎月、町内各地でゴミ拾いをしたり、地区の夏祭りに呼ばれてゲームをやったり、子ども野外研修でキャンプファイヤーのマスターをやったり、と自主活動をしているが、恵友会と同様、会員数が減っている。

青少年指導員は各地区から選出されており、19人いる。町の事業に関わってもらい、地域での青少年育成をするために町から委嘱をされた非常勤特別職である。ジュニアリーダー養成研修会は青少年指導員連絡協議会に委託しており、企画や運営をお願いしている。

(委員長) 中町の青少年指導員がいないとのことだが、年齢制限があるのか。

(事務局) 中町は人数が少なく、青少年指導員になる人がいないとことで選出されていない。

(委員) 中学生は学校を通じて呼びかけたら地区の活動に参加するのではないか。例えば、8月の防災訓練に中学生も参加してくださいと学校から呼びかけたら、各地区の中学生がかなり参加したようだ。もっと学校に呼びかけをした方が良い。PR不足ではないか。

(教育長) ゴミ0キャンペーンや防災訓練は中学生が参加している。学校が、この日は部活ではなく、町の行事に行こうと呼びかけている。恵友会に入ろうではなく、町のために、こうしたイベントに参加しようと呼びかけたら、参加してくれるかもしれない。

防災訓練は多くの中学生が集まったが、大人は何を子どもたちにさせてあげたか。危険であるとの懸念から、子どもたちの役割が少なく、子どもたちが物足りなく感じたと聞いている。

(委員) 今は指示を待ってから行動する子どもが多い。

(委員) 子どもたちに何をしたいか指導すれば良いのか。

(委員) 防災訓練では、役割を決めておけば中学生はしっかりこなしてくれると思う。

一色地区では、小さい子どもを参加させようと、もちつき大会をやっている。野球チームは指導者が気を遣い、ときどき来てくれるが、小学生の参加が少ない状況である。

大人も地域活動に積極的ではないと感じる。一色地区では若い人がたくさんいるにも関わらず、町に報告する委員選出に苦勞する。青少年を地域に集めることは大事だと思う。

(委員長) 最近の親は体験不足だと感じるので、子ども自然塾のように親子参加できる事業は良いと思う。

(委員) 子ども自然塾のスタッフとして、恵友会に声をかけることは可能か。

(事務局) 青少年指導員の了解を得れば可能である。

(委員) 恵友会やシニアリーダースクラブが子どもの遊び相手になれば助かる。

(委員) 子どもたちは年代が近い、お兄さんお姉さんに遊んでもらうと喜ぶ。

(委員) 二宮西中学校では、9月初旬に中学生を中心に避難所を開設する訓練を実施する。

地域の人は中学生に接することに慣れていなくて、防災訓練の時も上手く指示が出せないと聞いた。

(教育長) 地域の大人は、こうした仕事を手伝ってほしいと指示を出し、大人と中学生が触れ合う機会を作れたら良い。

(委員長) 大人の側がバリアーを作っているのではないか。

(委員) 中学生の避難所開設について、具体的にはどのような内容か。

(教育長) 地域の大人と中学生が防災教育の講演を聞いた後、各地区に分かれて救護所や受付、パーテーションを設置し、避難所の開設を行う。また、どうしたら避難者が快適に過ごせるかを考える。

(委員) 子どもたちが主体的に考えて参加した方が良い。取り組みに主体性がないと、次の活動につながらない。

(委員) 防災訓練で中学生が自主性を発揮するのは難しい。

(委員) 子どもにもメリットがないと、地域活動へ参加を促すことは難しい。

(委員長) シニアリーダースクラブはどこで清掃活動をしているのか。

(事務局) 土日に、いろいろな地区で行っている。

(委員) 活動している姿を見せるのが良いと思う。見える活動をしていると自分も同じようにやりたいという子どもが出てくるのではないか。

(教育長) 6回のテーマ研究を経て、事務局が報告書としてまとめるということで良いか。また、今日テーマを決めるということか。

(事務局) そうである。

(委員長) 社会教育関係団体は何か登録が必要なのか。

(事務局) 登録制ではない。社会教育関係団体には文化団体連盟、体育協会、PTAがある。団体に対するアドバイスというのは難しい。

役員のなり手がいない、会員の高齢化が進んでいる等、共通の課題があるので、こうした課題に対しての解決策を考える。役員のなり手がいないという問題は大人が地域活動に積極的ではないという問題ともつながる。

(委員長) 町社会教育関係団体のあり方については、協議が難しいのではないか。

(委員) 今の時代、既成のグループに入ることが難しい。グループに縛られるのが嫌だという考えがあるのかもしれない。

私は読みきかせのグループに所属しているが、新しい人の加入が全くない。
自然発生的にできたグループの方が活力がある。

予算がなくても何かを優遇する等、行政として応援できることを考えたかどうか。若い世代のアンテナでキャッチしたものを応援するのが良いのではないか。

(委員) 体育協会は加盟している利点がありません。会費も、体育施設の利用料も支払っている。

(委員長) 文化団体連盟に加盟する利点はあるのか。ラディアンや町民会館の利用料が無料になるのか。

(事務局) 施設料の免除はない。文化祭に関しては町と共催なので、会場は町が申請するため、使用料は無料である。

(委員) 「将来を担う青少年の健全育成について」をテーマに、前回の「地域に子どもが少なくなっており、また、地域活動に積極的に参加する人が少ない。このような状況で、社会教育団体も青少年の健全育成も、どのように組織を存続させるか、人を集めるかが課題となる。」という意見を基に話を進めていったら良いのではないか。

(委員) 健全育成の定義は難しい。心と体が健康であり、さらに、知識、情操的なもの、社会適応力らが育つことで健全育成が達成される。

(委員長) 「将来を担う青少年の健全育成について」を研究テーマとすることで良いか。健全という言葉別の表現とするかは今後考える。

(全委員) 同意

(委員) ということは、「社会教育における地域づくり・人づくり」という大きなテーマの中で「将来を担う青少年の健全育成について」に焦点を絞って協議するということである。

(教育長) 共働きの世帯は特に、土日にゆっくりしたいと思うが、大人も子どもも、週末に地域活動に参加することで、顔見知りになれば、青少年の健全育成につながる。

(委員) 地域活動の1つが、親子同士が交流している子ども自然塾だと思う。未就学児だけでなく、もっと年上の子どもにも活動を広げられたら良いと思う。

(委員) 小学生にも来てほしいが、一番参加の多い年齢は4～6才である。

(教育長) 社会教育委員会議の報告書において地域社会貢献例が掲載され、その内容を見た中学校の先生が部活を休みにし、貢献活動に参加させようとなれば、青少年の健全育成につながる。

(委員) 研究テーマを協議するのに、子どもに関係する組織について知りたい。

(事務局) 次回、生涯学習課と関わりがある子どもに関係する団体についての資料を用意する。

3. その他

- ・神奈川県社会教育委員連絡協議会総会の報告
- ・第5回会議の日程について、平成29年1月27日(金)を1月24日(火)に変更

4. 閉会